

工業部会通信

(発行)
相模原商工会議所工業部会

(編集)
かながわ経済新聞社
代表：千葉龍太
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
TEL：042 (851) 2021
FAX：042 (851) 3532

随時発行です。工業部会の
定期活動をご紹介します。
印刷しご自由にお読み下さい。

相模原でコマ大戦

町工場の技術が競演

相模原市青年工業経営研究会（青工研）は1日、市立産業会館で「全日本製造業コマ大戦・相模原場所」を開いた。全国で開かれているコマ大戦の市内開催は初めて。熱戦の末、優勝は千葉県京成プレスの決まった。相模原の企業では青工研所属のコバヤシ精密工業（南区大野台）が3位入賞。地元勢の意地をみせた。

市内外で28社参加



白熱した戦いが続いたコマ大戦

コバヤシ精密が3位入賞

参加企業は計23社。うち相模原市内からは11社が参戦した。市内の青工研が主催するビジネス交流会のイベントとして開催された。

■コマ大戦：自社の技術を駆使し、設計から加工まで手掛けたオリジナルのコマを使用する競技。形状や材質は自由だが、コマの直径は14mmより小さい20mm以下と規定されている。試合は、一対一で、相手のコマより長く回り続けていた方が勝者。2本先取で勝ち上がる。



市内外の企業が参加した相模原場所

決勝は、京成プレスとテックの千葉県勢同士の対決となった。両者とも一歩も譲らず3分以上もにらみ合いあう場面もあった。激闘の末、京成プレスの2本を先取。優勝を決めた。

同社の中野幸助さんは「失投もあったので、優勝するとは思っていませんでした。本当にうれし」とコメント。

ビジネス交流会開催

青工研所属33社が出展

相模原市青年工業経営研究会（青工研）の所属企業が自社の得意とする技術やサービスなどを内外に広くアピールする、「ビジネス交流会inさがみはら・ものづくりの未来見つけた」が1日、市立産業会館で開かれた。当日は、切削加工や環境製品製造などを行っている企業33社が参加。各社がブースを設けて、得意の技術力や製品をPRしていた。



会場には、市内外からサービスや製造、コンサルタントなど、約200人が来場していた。

不況でも利益生み出す秘訣

梅原さん講演

2008年6月期まで売上高営業利益率35%を続けた「驚異の町工場」として知られる、エーワン精密（東京都府中市）の梅原勝彦・取締役相談役が1日、市立産業会館（中央区中央）で講演。市内の経営者らの前で、

相模原撤退へ 拠点集約で合理化

経営再建中の半導体大手ルネサスエレクトロニクスが、相模原市中央区下九沢にある相模原事業所を閉鎖する方向で検討していることが分かった。

拠点の集約に伴う経営の合理化が狙いとみられる。2015年中にも実施する方針だ。

ただ、ルネサスはNEC相模原事業場内に間借りしている。そのため閉鎖後もNECの拠点自体は残るといわれる。

ルネサスの相模原事業所は半導体製品の研究開発を手掛ける。従業員数などは公表していない。相模原と同じく、現在の本社となっている川崎市中原区の玉川事業所も閉鎖する考えだ。

相模原と玉川の機能は、現在の主力拠点となっている那珂事業所（茨城県）、高崎（群馬県）などの拠点到集約していく方向だ。

（記事提供・かながわ経済新聞社）

「産Navi大賞」募集

経営者福祉振興財団
大賞に賞金100万円

県経営者福祉振興財団は2月3日から「かながわ産Navi大賞2014」の募集を始める。今年で5回目。県内企業が発表したサービスや製品、技術などが対象。売り上げ増や販路拡大に結びつくなど、具体的な成果があったものを表彰する。今年2月までの過去3年以内に効果があったことが条件。

フロンティア部門と環境（エコ）部門で、それぞれ大賞と優秀賞を1件ずつ決める。大賞の場合、100万円、優秀賞は50万円の賞金が出る。

また、全応募者の中から奨励賞（賞金30万円）も計3件決める。5月12日（当日必着）まで募集する。表彰式は9月を予定。問い合わせは、同財団045（671）7125まで。

会社の経営の秘けつを語った。

同講演会は、青工研主催のビジネス交流会の特別企画の一つとして実施された。

梅原氏は1939年生まれ。父の経営する会社が倒産し、12歳のときに、ねじ工場で働き始める。その後、エーワン精密を設立。ジャスダックに上場も果たしている。

「ワーク機械に取り付ける「コレットチャック」では国内シェア6割。徹底した短期納期を強みに差別化している。不況でも着実に利益を生み出した。梅原流経営術」について

て、来場者の注目も高く、会場となった相模原市立産業会館は満員となっていた。

梅原相談役は、「（製造業が）一番の差別化が図れるのは短期納期対応だ。そのために人と設備はやや過剰な方がよい。注文残はなるべく少なくして、急な依頼にいつでも対応できるようにする。そうでないと勝ち組にはなれない」と持論を展開した。

また、創業以来、利益を出せている理由として「販売価格をいじらず、ずっと維持したから」などと説明した。

低炭素社会をめざして 星に願いを込めました。

いま東京ガスが目指しているのは、低炭素社会の実現です。その核となる取り組みが「スマートエネルギーネットワーク」。太陽熱・太陽光などの再生可能エネルギーを積極的に取り入れ、それらを天然ガスがバックアップ。不安定な再生可能エネルギーをガスコージェネレーションシステムと組み合わせ、未利用熱も活用しながら、地域で電気や熱を融通し合うことで、最適なエネルギー利用を実現します。

低炭素社会へ。
東京ガスは取り組んでいます。
<http://www.tokyo-gas.co.jp/>

エネルギー・フロンティア
TOKYO GAS

スマートエネルギーネットワーク

低炭素社会への近道を、
7つの星が教えてくれました。

低炭素社会

星座の位置はイメージです。撮影場所：長野・東京ガスの森